環境活動レポート

（対象期間：令和２年４月～令和３年３月）

Environment Management System

Rogicle WEST JAPAN CO.,LTD.

株式会社 西日本ロジクル

発行日　2021 年 9 月 10 日

環　　境　　方　　針

地球温暖化を始めとする地球環境問題は深刻さを増し、私たちはどのように向き合っていけばいいのか、考えなければなりません。
このような背景を受け、㈱西日本ロジクルはリサイクル事業の推進により循環型社会の形成に貢献することが社会的使命であると認識し、地球環境及び地域環境の保全と環境負荷の低減に向けて積極的な取組みを推進しています。
若い会社ではございますが、全社員が環境保全に対する意識を向上させ、環境方針が理解できるようにEMS（環境マネジメントシステム）の周知、実行、維持を徹底し、
「安心」「安全」「信頼」をお届けし社会に貢献してまいります。

行　動　指　針

・当社が関係する環境関連法規等を遵守します
・二酸化炭素の排出量削減に努めます
・排出者と連携して廃棄物の削減・再資源化(3R の実施)を進めます
・使用水量(排出水量)の削減(節水)に努めます
・グリーン化商品の購入を推進します
・従業員の環境方針理解と、環境に関する意識向上を図ります
・環境方針を公開し、地域貢献活動を積極的に取組みます

株式会社西日本ロジクル

代表取締役　出口敦規

平成 24 年 12 月 20 日　制定

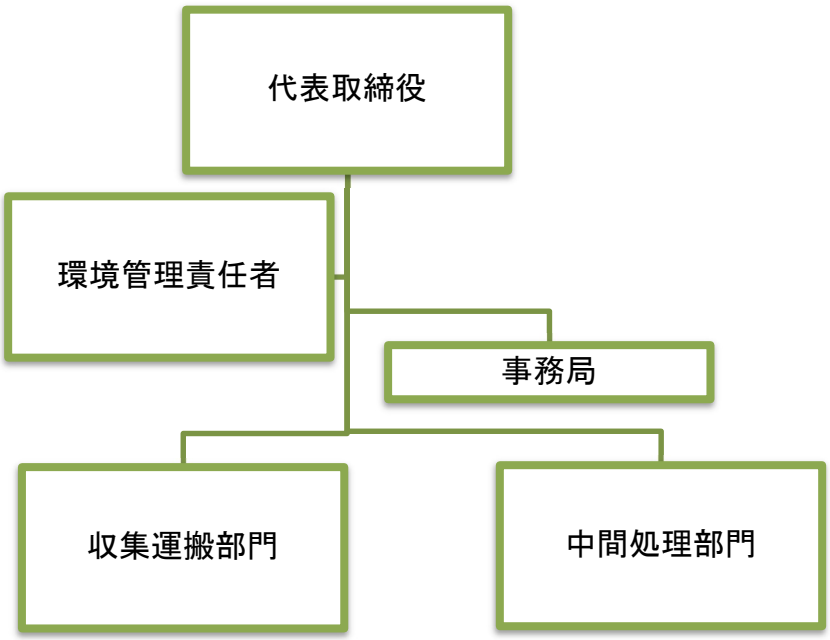
組織概要

会　社　社　名	株式会社 西日本ロジクル
代 表 取 締 役	出口 敦規
環境管理責任者	下村　馨
事　　業　　所	本社　：大分県大分市大字家島字渡場303番1 駐車場：同上 TEL 097-594-0232　FAX 097-594-2018 west-japan-rogicle@wave.plala.or.jp 第二リサイクルセンター：大分県大分市家島1076-2
法　人　設　立	平成20年9月
資　　本　　金	3百万円
売　　上　　高	200百万円　(R2年8月期)
決　　算　　期	9月～翌8月
環　境　年　度	4月～翌3月
従　業　員　数	23名
事業所述べ面積	500㎡（本社・駐車場）　3600㎡（第二リサイクルセンター）

Rogicle WEST JAPAN

…ロジクルの由来
ＬＯＧＩＣ（ロジック）―論理
ＲＥＣＹＣＬＥ（リサイクル）―再資源化
論理的にリサイクルができるような仕組みを常に追求する。

【実施体系図】



業務内容

・事業系一般廃棄物収集運搬

・産業廃棄物収集運搬

廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くず、ゴムくず、がれき類
ガラスくず及陶磁器くず、金属くず、廃油、燃えがら、ばいじん、
廃酸、廃アルカリ、汚泥、動植物性残さ、鉱さい

・特別管理産業廃棄物

廃油、廃酸、廃アルカリ、感染性産業廃棄物、廃石綿等、廃水銀等
鉱さい、ばいじん、燃え殻、汚泥

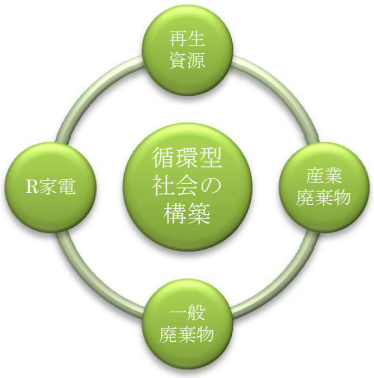
・産業廃棄物処理

廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くず、ゴムくず、
ガラスくず及陶磁器くず、金属くず

・リサイクル家電

・その資源の取扱

古紙、プラスチック類、金属類、非鉄関係、その他リサイクル廃棄物



許可一覧

1. 産業廃棄物処分許可

都道府県及び政令都市	区分	処分方法	許可年月日 有効期限年月日	許可番号	許可品目
大分市	中間処理	破砕	平成 28 年 11 月 22 日 平成 33 年 11 月 21 日	08820 146154	廃プラスチック類、木くず、金属くず、ゴムくず、紙くず、繊維くず、ガラス及び陶磁器くず(以上 7 種類)
		圧縮梱包			廃プラスチック類、木くず、金属くず、ゴムくず、紙くず、繊維くず、ガラスくず

施設の処理能力

①粉砕施設（固定式）

廃プラスチック類（1.75t/日）、ゴムくず（2.35t/日）、木くず（2.29t/日）、繊維くず（1.25t/日）、紙くず（1.84t/日）、金属くず（1.22t/日）、ガラスくず及び陶磁器くず（3.34t/日）（全て 8 時間/日）

②圧縮・梱包施設

12.48t/日（8 時間/日）

2. 産業廃棄物収集運搬及び特別管理産業廃棄物収集運搬

都道府県及び政令都市	区分	許可年月日 有効期限年月日	許可番号	許可品目
大分県	積替え 保管無	令和元年 5 月 25 日 令和 6 年 5 月 24 日	04402 146154	廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類、燃え殻、ばいじん、廃酸、廃アルカリ、汚泥、鉱さい、動植物性残さ(以上 16 種類)
大分市	積替え 保管有	平成 30 年 3 月 22 日 平成 35 年 3 月 21 日	08810 146154	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、鉱さい、がれき類、木くず、紙くず、繊維くず、ゴムくず、廃油、廃酸、廃アルカリ、ばいじん、燃え殻、汚泥、動植物性残さ（以上 16 種類）
福岡県	積替え 保管無	令和元年 10 月 29 日 令和 6 年 10 月 28 日	04000 146154	廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類、燃え殻、ばいじん、廃酸、廃アルカリ、汚泥、鉱さい、動植物性残さ(以上 16 種類)
大分県	積替え 保管無	平成 31 年 1 月 10 日 平成 36 年 1 月 9 日	044521 146154	感染性廃棄物、廃石綿等、廃油、廃酸、廃アルカリ、ばいじん、汚泥、鉱さい、燃え殻、廃水銀等（以上 10 種類）
福岡県	積替え 保管無	令和元年 9 月 12 日 令和 6 年 9 月 11 日	04050 146454	感染性廃棄物、廃石綿等、廃油、廃酸、廃アルカリ、ばいじん、汚泥、鉱さい、燃え殻、廃水銀等（以上 10 種類）

3. 一般廃棄物収集運搬許可

行政区	区分	許可年月日 有効期限年月日	許可番号	取扱廃棄物
大分市	収集運搬	令和 2 年 12 月 17 日 令和 4 年 12 月 16 日	4226 号	事業系一般廃棄物
別府市		令和 3 年 4 月 1 日 令和 5 年 3 月 31 日	5 号	

4. 産業廃棄物収集運搬　積替え保管の所在地、面積等

所在地	大分市大字家島字松浦 1071 番 1
面積	39.55 ㎡
容量	49.36 ㎥
高さ	1.8m
種類	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、木くず、がれき類、廃油、廃酸、廃アルカリ （以上 8 種類。ただし、水銀含有ばいじん等を含まず、石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を含む）

施設一覧

種類	仕様	台数
収集運搬車両	8 t ～10 t	5 台
	4t	14 台
	2t～3 t	4 台
	軽トラック	1 台
フォークリフト	2.5 t	6 台
破砕機	—	1 台
プレス機	—	2 台
8 ㎥コンテナ	30 台	
12 ㎥コンテナ	4 台	
3 ㎥スタンド	120 セット	

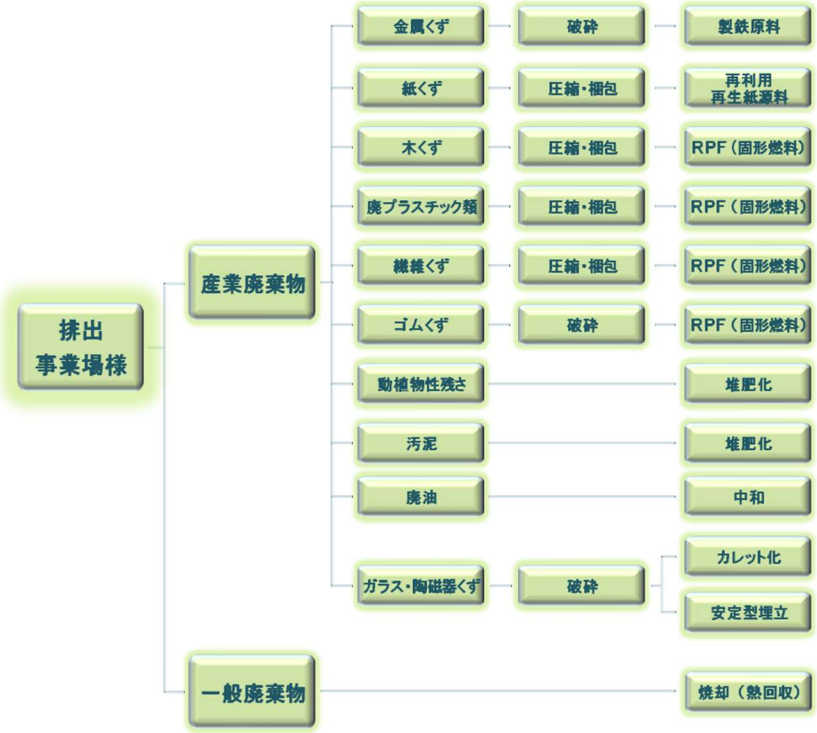
処理実績

（令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月）

品目	収集運搬（t）	中間処理（t）	再資源化（t）	最終処分（t）
金属くず	11.3	11.3	11.3	0
廃プラスチック	385.5	71.5	65.7	5.8
木くず	0.9	0.9	0.9	0
ガラス. がれき	7.8	7.8	0	7.8
混合廃棄物	627.4	623.3	230.9	142.8
一般廃棄物	770.5	—	—	770.5
ダンボール	1877.8	—	1877.8	—

（注記）混合廃棄物の中間処理量と再資源化、再処分の量の相違は、期初と期末の在庫の差による。

処理フロー


排出
事業場様
産業廃棄物
金属くず
破砕
製鉄原料
紙くず
圧縮・梱包
再利用
再生紙源料
木くず
圧縮・梱包
RPF（固形燃料）
廃プラスチック類
圧縮・梱包
RPF（固形燃料）
繊維くず
圧縮・梱包
RPF（固形燃料）
ゴムくず
破砕
RPF（固形燃料）
動植物性残さ
堆肥化
汚泥
堆肥化
廃油
中和
ガラス・陶磁器くず
破砕
カレット化
安定型埋立
一般廃棄物
焼却（熱回収）

環境目標

管理番号	選択課題	基準年度 平成30年度実績	平成31年度 目標	令和2年度 目標	令和3年度 目標
1	二酸化炭素排出量削減	142,547 kg-CO_2	基準年度比 Δ1%	基準年度比 Δ2%	基準年度比 Δ3%
	効率管理(売上百万円あたり)	950	941	931	922
1-1	電力消費量削減	10,007 kWh	基準年度比 Δ1%	基準年度比 Δ2%	基準年度比 Δ3%
1-2	ガソリン消費量削減	1,929 ℓ	基準年度比 Δ1%	基準年度比 Δ2%	基準年度比 Δ3%
1-3	軽油消費量削減	51,196 ℓ	基準年度比 Δ1%	基準年度比 Δ2%	基準年度比 Δ3%
2-1	廃棄物分別、再資源化促進	分別管理 の徹底	分別活動の継続実施		
2-2	受託産業廃棄物の再資源化率の向上	81.1 %	基準年度比＋ 1%	基準年度比＋ 2%	基準年度比＋ 3%
3	水使用量削減	75 m^3	節水活動の実施		
4	グリーン購入の推進 (事務用品の選択)	グリーン対象 商品購入	グリーン商品の購入実施		

（注記） 1. 電気の CO2 排出係数は 2019 年度九州電力調整後排出係数 0.371 kg-CO2 を使用。

2. 受託産業廃棄物再資源化率＝(産廃再資源化物+段ボール)/(産廃再資源化物+段ボール+一般廃棄物)

環境活動計画と評価

（対象期間：令和２年４月～令和３年３月）

評価基準　○:良くできた　△:できたが改善の余地あり　×:できなかった

環境方針の番号	目標課題	対象部門	具体的な行動(活動)	評価
1	二酸化炭素排出量削減			
1-1	電力消費量削減	事務所	1. 昼休みは消灯する	○
		全部署	2. 不在個所はこまめに消灯する	○
		事務所	3. 空調温度管理(冷暖房効率利用)を行う	△
		事務所	4. エアコンフィルターを定期清掃する	○
		代表者	5. LED照明の導入を検討する(中長期)	△
1-2	ガソリン消費量削減	全部署（運転者）	1. 乗車前の点検(タイヤ空気圧など)	○
			2. 省エネ運転を励行する	○
			3. エコドライブ学習会を実施する(年2回)	△
		代表者	4. 省エネ車への更新を検討する(中長期)	△
1-3	軽油消費量削減	収集運搬部門(運転者)	1. 乗車前の点検(タイヤ空気圧など)	○
			2. 省エネ運転を励行する	○
			3. エコドライブ学習会を実施する(年2回)	△
		代表者	4. 省エネ車への更新を検討する(中長期)	△
2-1	一般廃棄物排出量削減	全部署	1. 分別管理を徹底させる	○
			2. コピー紙の両面利用を徹底させる	○
			3. 使用済紙は、機密保持に留意し再資源化を推進する	○
2-2	受託産業廃棄物の再資源化率の向上	中間処理部門	1. 分別管理を徹底させる	○
		収集運搬部門	2. 顧客への分別指導を実施する	○
		全部署	3. 再資源化率向上について勉強会を実施する	△
3	水使用量削減	全部署	1. 節水のシールを貼り、意識を高める	○
		収集運搬部門	2. 洗車は拭きあげを先行させる	△
4	グリーン購入の推進	事務局	1. グリーン購入対象を整理する	○
		事務局	2. 発注者を決めて管理する	○
		環境管理責任者	3. 購入実績を確認する	○

環境目標・環境活動の評価及び今後の取組方針

(対象期間：令和２年４月～令和３年３月)

注記：基準値は平成 30 年度

項目	基準値	目標値	実績	達成度
１二酸化炭素排出量	142,547 kg-CO_2	139,696 kg-CO_2	215,877kg-CO_2	64.7%
1-1 電気使用量	10,007 kWh	9,807 kWh	14,041kWh	69.8%
1-2 ガソリン使用量	1,929 ℓ	1,890 ℓ	2,484 ℓ	76.1%
1-3 軽油使用量	51,196 ℓ	50,172 ℓ	78,077 ℓ	64.3%

（環境目標・環境活動の評価）

電力使用量

本社　基準年度　6,522kWh　目標　6,392kWh　実績　6,613kWh

第二ＲＣ　基準年度　3,485kWh　目標　3,415kWh　実績　7,423kWh

本社は、節電意識が定着し、こまめな管理が徹底できた。社員が増え、仕事対応時間も増え増加要因となった。エアコンを効率良く使用した結果、目標は未達成であったが増加を抑えることができた。

第二ＲＣは、、稼働が本格的になり、構内整備などの執務対応に加え、設備が稼働したことで使用量が増加した。効率的な収集運搬ルートの見直しを実施したが、新規取引先の受注が伸び、軽油仕様の車両が増えた為、CO2 排出量・軽油使用量の目標達成率が未達成となった。

ガソリン使用量（全社共通管理）

ガソリン使用量は、新規顧客への訪問機会が増加したために、前年から増加した。

エコドライブの行動が定着してきたが及ばなかった。

軽油使用量（全社共通管理）

第二ＲＣが稼働し、顧客も増加した結果、軽油の使用量が激増した。目標は大幅に未達であった。当社の使用エネルギーの 90%以上を軽油が占めている。収集運搬の仕事量、輸送距離に左右されるが、乗務前のタイヤ空気圧の確認、省エネ運転の励行を朝礼等の確認を継続してきたことも削減につながったと思われる。

総評

全体としては、外部要因が大きく目標は未達成であったが、その対応としてはエネルギーの効率利用を進めることができた。

（今後の取組方針）

今期は、新規の収集運搬業務が大きく増加し、車両数、従業員数も増加した。本社、第二ＲＣともに相互に連携しながら、今まで以上に環境活動計画の確実な実施、各自が気づいたことを実行に結び付けるなど、意識向上、行動徹底を図っていく。

２－１一般廃棄物	分別管理の徹底を継続して取組む。

（環境目標・環境活動の評価）

オフィスゴミは、数量もわすかであり、量の把握は行わないが、廃棄物の有効利用促進に携

わる企業として、社内の分別基準に沿って分別を徹底させることができた。
社員のさらなる意識向上、きめ細かい分別活動が必要である。

（今後の取組方針）
新入社員も増加しており、全員が率先して分別、再資源化に取組み、家庭生活においても習慣となるよう相互確認も協力を進めていく。

２－２受託産業廃棄物の再資源化の推進	81.1%	82.1%	75.0%	目標は未達成となった

（環境目標・環境活動の評価）
一般廃棄物の収集運搬量が増えたため、目標の達成ができなかった。
顧客の再資源化取組みを勧めるための、一つの指標として把握してきたが、自社努力では難しい目標課題である。

（今後の取組方針）
再資源化の促進は、産廃業としての姿勢として重要であり、指標としての実績把握は継続していく。数値目標の設定方法は、今後見直しを検討してする必要がある。

３水使用量	使用量を把握し、節水への取組みを継続する。

（環境目標・環境活動の評価）
お客様への配慮のため、車両はできるだけきれいにしておく。そのための洗車作業は、拭き上げを先行させて、水使用量の節約に努めてきた。毎日の努力が、数値にも表れてきた。

（今後の取組方針）
今後も拭き上げ優先の洗車、手洗い時の節水を励行し、環境活動を順守していく。
車両数、従業員数が大きく増えたが、効率の良い水使用と車両の美化を両立させる。

４．グリーン購入	グリーン購入品選択・購入	活動計画の実行管理	事務担当者を発注管理者とした	用紙、筆記具等エコマークを選択

（環境目標・環境活動の評価）
事務用品を中心にグリーン商品を購入。実際に使用することにより意識が高まった。
発注担当者（事務員）を決めて、購入品がエコマーク品であることを環境管理責任者が確認することで、目標は達成できた。

（今後の取組方針）
ガイドライン改訂で、グリーン購入が必須ではなくなるようたが、今後も事務用品等の購入は可能な範囲でグリーン商品を継続していく。

環境関連法規の遵守確認結果

当社が関係する主な環境関連法規

◆廃棄物処理法
◆消防法
◆家電リサイクル法　自動車リサイクル法
◆排ガス規制法、道路運送車両法

遵守状況チェックリストにより確認した結果、法令違反はありませんでした。また、過去3年間以上、法令違反、訴訟や環境に関する苦情や要望の受付はありません。

代表者による全体の評価と見直し結果

エコアクション21認証取得から9年目を迎えた。
環境への配慮は、目標を数値化することにより、環境保全に対する社員の意識が高まってきたことを実感している。
事業活動の成長を支えていくためには、従業員の安定確保が最も重要であり環境活動を継続することにより、お互いの理解、協力関係も強化することができた。
当期の目標は、未達成率が大きくなってきたが、自社努力にかかわる課題については、概ね順調に達成することができた。
第二リサイクルセンターは、稼働開始から3年あまり経過し、積替え保管業務、車両の管理スペースとしての活用が定着してきた。
今期からは、新規成約の事業対応のため、車両、従業員数が大きく増えた。
主エネルギー源である軽油の効率使用を確実に進めると同時に、購入先の選択、契約方法なども見直し、コスト削減も進めていきたい。
今後は、2017年版ガイドラインへの意向が優先テーマであるが、環境方針のと環境マネジメントシステムの骨格は継続しながら、収益率向上、事業活動の安定成長を従業員、取引先とともに推進し、持続可能な社会づくりへの小さな貢献を継続していく。
環境方針、目標及び計画は継続し、2017年版への移行時に変更する。

2020年9月1日
代表取締役　出口　敦規

Rogicle WEST JAPAN